

報道機関各位

令和8年 7月 23日

戦後81年 夏の企画 くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者定期講話

市は、戦争体験者の高齢化と減少が進む中、被爆や空襲などの戦争体験を風化させず、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さを広く伝えるために、2015 年より市内在住の戦争体験者から体験と平和への思いを受け継ぎ、次の世代へとつなげる事業を実施しています。

今夏も、市が育成・認定した 30 代～80 代の伝承者が、受け継いだ広島や長崎での原爆体験や東京大空襲の体験を、体験者の平和への思いとともに、心を込めて語ります。

このことを広く周知したく、ぜひ、貴媒体での告知および取材・掲載方、お願いいたします。

概要

■日時・場所

	7月29日(水)	8月6日(木)【広島原爆の日】	9月6日(日)
午後2時～2時45分	広島原爆の講話	広島原爆の講話	長崎原爆の講話
午後3時～3時45分	東京大空襲の講話	長崎原爆の講話	広島原爆の講話
場所	矢川プラス 多目的ルーム	FSXホール 地下スタジオ	矢川プラス 多目的ルーム

	8月15日(土)【終戦の日】
午後1時30分～2時15分	東京大空襲の講話
午後2時30分～3時15分	広島原爆の講話
午後3時30分～4時15分	長崎原爆の講話
場所	国立駅前くにたち・こくぶんじ 市民プラザ



▲伝承者講話の様子。

<共通事項>

■定員:各日50名(申込先着順、空きがあれば当日参加可)

■申込:各日開催日の3日前までに、参加者氏名と電話番号等の連絡先を問まで電話またはメール、申込フォーム(<https://logoform.jp/f/Uaogx>)より

■備考:同日の講話の伝承者は異なります。途中入退場可。

本件に関する詳細は、別添の補足資料をご参照ください。

問い合わせ

国立市 政策経営部 市長室 平和・人権・ダイバーシティ推進係
TEL:042-576-2111(内線 229)

(補足資料)

教科書からは見えてこないあの日のこと。

くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者定期講話（7月～9月）

2016年から続く本定期講話は、2024年に実施100回（講話）を超え、2026年度は広島原爆の日（8月6日）、終戦の日（8月15日）を開催日に据え、計7日程15講話（実施済み含む）を予定しています。

「戦後80年も、戦後81年も、何年(いつ)であっても伝えることは変わらない。」という伝承者の想いのもと、これからも“くにたち原爆・東京大空襲体験伝承者”は、定期講話等を通じて、人から人へ、世代から世代へ、時代から時代へと、被爆や空襲の実相と体験、そして体験者の平和への思いをつないでまいります。

■今夏 開催日程等

7月29日（水）14時～16時（受付開始13時50分）	
内容	14時～：広島原爆の講話／15時～：東京大空襲の講話
会場	矢川プラス 多目的ルーム（JR南武線 矢川駅 徒歩約4分）
8月6日（木）14時～16時（受付開始13時50分）【広島原爆の日】	
内容	14時～：広島原爆の講話／15時～：長崎原爆の講話
会場	F S Xホール 地下スタジオ（JR南武線 谷保駅 または矢川駅 徒歩約10分）
8月15日（土）13時30分～16時30分（受付開始13時20分）【終戦の日特別企画】	
内容	13時30分～：東京大空襲／14時30分～：広島原爆の講話／15時30分～：長崎原爆の講話
会場	国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ（JR中央線 国立駅 徒歩約2分）
9月6日（日）14時～16時（受付開始13時50分）	
内容	14時～：長崎原爆の講話／15時～：広島原爆の講話
会場	矢川プラス 多目的ルーム（JR南武線 矢川駅 徒歩約4分）

以降は、2027年1月30日、3月7日の開催予定。

■申し込み詳細

対象	市民、年齢問わず参加可。※市内の公立小中学校全校でも伝えているこの講話は、小学校中学年から大人まで幅広い世代の方に聴講いただいています。
費用	無料
申込	申込優先 ※当日、お席に余裕がある場合は申込がない方も参加可。
申込方法	① WEB フォーム： https://logoform.jp/f/Uaogx ②電話：042-576-2111 内線:229 または 256 ③メール：宛先 sec_diversity@city.kunitachi.lg.jp ※②③は、①名前②参加人数③参加日程④連絡先を連絡。

■くになち原爆・東京大空襲体験伝承者 概要

プロジェクト	2015 年 1 月～ 第 1 期伝承者育成プロジェクト
開始時期	第 2 期：2017 年 1 月～／第 3 期：2022 年 4 月～
2026 年度活動者数	20 名※（広島原爆：11 名／長崎原爆：6 名／東京大空襲：9 名） ※2 つの講話を話すことができる伝承者がいるため、内訳の人数とずれがあります。
委嘱者	東京都国立市
ホームページ	▶「くになち原爆・東京大空襲体験伝承者」の定期講話 https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/shisei/jinken/1/2/7726.html ▶くになち原爆・東京大空襲体験伝承者講話 https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/shisei/jinken/1/2/7725.html

戦争体験者の高齢化― 語る限界とつなぐ挑戦

2015 年、当市は、長崎で被爆した桂 茂之氏（当時くになち桜会・会長）と広島で被爆した平田忠道氏（当時同会・副会長）とともに、両氏の原爆の体験と平和への思いを次世代に継承する伝承者（後継者）の育成を開始しました。2017 年からは、東京大空襲の体験者・二瓶治代氏も加わり、二瓶氏の体験を語る伝承者を育成。現在、広島原爆、長崎原爆、東京大空襲の 3 つの戦争体験を、定期講話、学校講話、派遣講話※を通じて語り継いでいます。

※2023 年度からは被爆体験伝承者等派遣事業（国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 実施）に国立市が養成した広島原爆・長崎原爆の伝承者が参加。原爆体験伝承者（東京都国立市養成）名称にて全国に派遣されています。

体験者の体験と想いはそのままに、伝承者の数だけ「語り」がある

当市の伝承者は、1 年以上かけて体験者から聞き取った体験や平和への思いを「事実を曲げない」「捏造しない」ことを原則として、伝承者自身の感性と生の言葉でストーリーを組み立てて講話を行っています。体験者のコピーではない語りこそが、本伝承者講話の真髄といえます。

受け継ぐ戦争体験



8/6
広島

平田 忠道さん

1930 年（昭和 5 年）生／2019 年逝去
1945 年 4 月、東京都麻布から父親が転勤していた広島へ、母親と妹、2 人の弟とともに転居。そのわずか 4 か月後、中学 3 年生だった平田さんは、広島市北部にある可部町での勤労働員の作業中に被爆。



8/9
長崎

桂 茂之さん

1930 年（昭和 5 年）生／2017 年逝去
当時長崎中学校 3 年生だった桂さんは、学校で製造した部品を大八車に乗せて、同級生 4 人 1 組で三菱造船所に運ぶ途中、長崎駅付近で被爆。



3/10
東京

二瓶治代さん

1936 年（昭和 11 年）生
8 歳のときに東京大空襲に遭い、亀戸で被災。家族とはぐれて炎の中を逃げまどい、折り重なる死体の下で一命を取り留める。奇跡的に家族と再会するも、前日まで遊んでいた多くの友人が犠牲に。

以上